出典：日刊建設工業新聞 2006年4月6日（木曜日）

新美化センターを公告

総合評価一般競争 姫路市、11日に説明会

DBO／DBM方式、20年

兵庫県姫路市は5日、公設民営方式を導入する「（仮称）姫路市新美化センター整備運営事業」の総合評価一般競争入札を公告した。事業は「DBO／DBM」方式により、民間事業者がごみ焼却施設と再資源化施設を整備し、20年間運営するもので、11日に募集要項説明会を開催する。その後は、6月9～16日に資格確認申請書類、7月25日に入札書類をそれぞれ受け付け、8月31日に開札、落札者を決定する予定だ。基本計画等作成業務は大建設計、アドバイザーは日本総合研究所、西村とき わ法律事務所が担当。

事業は、現在、ごみの焼却処理を行っている南部美化センター（飾磨区今在家）と市川美化センター（東郷町）における安定処理能力の超過や南部美化センターの老朽化への対応をはじめ、環境負荷の低減や一般廃棄物の適正処理、環境面での啓発、余熱を利用した健康増進施設の整備を図る目的で、新たなごみ処理施設を整備するもの。

参加資格は、市の入札参加資格を持つ単独企業、もしくは複数企業で構成する企業グループで、代表企業は指定格付機関における長期格付、または長期債に関する格付けで10番目以内に位置付けられているか、市がこれに相当すると認めることが主な要件。

構成企業については①建設業許可企業で同工種の経審評点が1000点以上、建屋が建築の特定建設業許可企業で同工種の経審評点が1500点以上（市内業者1000点以上）で、いずれも同種類似の施工実績がある②運転企業は市の「役務提供」に登録している―ことなどが条件となる。

事業実施場所は、同市網干区網干浜4の1の敷地面積約15・2㌶で、敷地中央部（約5・96㌶）にごみ焼却施設や再資源化施設、寄発・管理施設を建設。また、敷地北側（約4・17㌶）に余熱を利用した温水プールなどの健康増進施設やゲラウンドゴルフ場を含む芝生広場を整備し、外周部（約1・95㌶）は緑地帯とする計画で、ごみ焼却施設は灰溶融付きストーカ炉、またはシャフト式ガス化溶融炉で1日あたり最大450㌧、再資源化施設は同100㌧の処理能力を想定している。

事業方式は、「ごみ焼却施設が「DBO（設計・施工・運営）」方式、再資源化施設が「DBM（設計・施工・維持管理）」方式で、選定事業者はごみ焼却施設と再資源化施設の設計・施工、寄発・管理施設や余熱利用施設などの基本設計、ごみ焼却施設の運転、維持管理、補修・更新や再資源化施設の維持管理、補修・更新を担当する。

事業期間は、建設が06年12月～10年3月末の約3年3カ月、運営が10年4月～30年3月までの20年間で、入札の予定価格については建設費215億5900万円、運営費220億6300万円、基本設計費3500万円の計436億5700万円となっている。

落札者の選定に関しては、価格要素に40点、非価格要素に60点を配分。計100点満点で総合評価を実施し、予定価格の範囲内で応札した最終審査対象者の中で、総合評価点の最も高い入札者を落札者として決定する。落札者決定後は基本契約を締結し、市との詳細協議を実施。その後は11月中旬にも仮契約を締結、議会の承認後となる12月下旬には正式契約を締結する予定にしている。

入札説明書などの募集要項は、市ホームページ（http://www.city.himeji.hyogo.jp/shobunji/index.html）からダウンロードできる。募集要項説明会については11日午後2時から市役所10階大会議室で開催。参加希望者は7日までに電子メールで申し込む。資格確認申請書類や入札書類などは持参提出のみ受け付ける。

説明会などの申し込みや問い合わせ先は、姫路市環境局環境事業推進室（〒670-8501姫路市安田4の1、電話0792・21・2833、メールアドレスshinsei.hyogo.jp）、入札手続きなどの受付先は、同市総務局行政部経理課（電話0792・21・2236）。